

特集

基幹病院で学ぶ 皮膚外科の妙技まるごと一冊！

羅針盤

皮膚外科とゴルフ



伊藤 周作

Ito Shusaku

日立総合病院皮膚科 主任医長

2002～2004 年の 3 年間、大原國章先生のもとで皮膚外科を勉強させていただきました。当時、医者になってから始めたゴルフにもはまっていたのですが、大原先生も大のゴルフ好きで、毎年夏には若手を引き連れ八ヶ岳の麓でゴルフ合宿をするほどでした。そんな師匠は手術中、ことあるごとにゴルフにたとえて指導されました。「グリップがおかしい＝持ち方がおかしい」「アドレスが悪い＝立ち位置が悪い」「素振りしなさい＝糸結びの練習をしなさい」などなど、どれも自分には妙にじっくりきてしまい、皮膚外科もゴルフもますます夢中になってしまいました。

月日は流れ、当時の師匠の年齢に近づきました。本特集の内容を師匠風にいえば、まず総論で「グリップやアドレスの仕方」、「コースに出るための準備」、「ラウンド後の記録と反省」について述べます。各論では、「池やバンカーの把握」、「ドローやフェードの打ち方」、「OB の避け方」など、実践に役立つ

技術について学んでいただきます、といったところでしょうか。

本特集は、基幹病院でこれから働く皮膚外科初心者の若手に、「まずはこれを 1 冊読んでおいて」と渡せるものになるよう企画しました。初歩的な内容、基礎的な知識や技術が中心ですが、基幹病院で必要となる皮膚外科のエッセンスが詰まっています。執筆は、日頃から熱く皮膚外科指導にあたっている先生方に依頼しました。施設によって多少の流儀の違いはあるでしょうが、実際の現場で若手に教えている技についてポイントを押さえて書いていただいています。

紙幅の都合上、ここには書ききれなかった、取り上げられなかった手技もたくさんあります。ですが、この本をきっかけに皮膚外科を少しでも楽しいな、面白いな、もっと知りたいと思った先生方は、ぜひ日本皮膚外科学会総会・学術集会〔2026 年は 8 月 22・23 日 KFC Hall（東京両国）〕に参加してみてください。他の学会とは一味違った、明日の診療からすぐに役立つ工夫や技、ときに笑い!? があふれています。

AI に snap diagnosis されてしまう未来は、すぐそこまで来ているような雰囲気ですが、さまざまな患者に応じて臨機応変に考え、手を動かし手術する立場が奪われるには、まだ時間がかかるはずです。AI 時代を迎える皮膚科医の延命に、皮膚外科はきっと役立つでしょう。